

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年4月9日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

期待の春

いづち みつる

校長 井土 満

いよいよ、新校「若葉台小学校」が始まりました。私は、このたび、校長に着任した井土 満です。「初代校長」という名誉と責任の重さに身が引き締まる思いです。

若葉台小学校は、地域や保護者の皆さんを始め、多くの方々のご支援をいただき、また、思いや期待が込められての開校です。その思いや期待を端的に表せば、「共に学び共に育つ学校」「地域をつなぎ、未来を拓く学校」ということになります。

そのような新校で学び育つ児童には、様々な人々と協力し、困難な問題にも立ち向かい、世界や社会に貢献し、次代のまちを担う人間になってほしいと願い、以下の教育目標を決めました。

自ら学ぶ子 (自分から学び、深く考え、行動する子ども)

心豊かな子 (生命や人権を尊重し、みんなと協力する心豊かな子ども)

元気な子 (未来を切り拓き、世界や社会で活躍する元気でたくましい子ども)

入学や統合新校という環境は、子どもたちにとっては大変化です。しかし、これからの社会を生きる子どもたちは、たくさんの変化にぶつかり、それを乗り越えていかなければなりません。そう考えれば、新校は、その力を付けるに最適の機会です。変化を恐れず前向きに捉え、よりよく進歩していくとする積極的な態度と、新しい学校を自分たちで創造するという意欲をもつ児童を育てたいと思います。

新校は、けやき台小学校と若葉小学校の児童と99名の新入生を合わせ、全校児童数が690名と立川市内で一番大きな小学校になりました。どの子にとっても、いつもの年以上に、不安であり、同時に期待で一杯の新学期でしょう。その期待は、新しい友や教師との出会いへの期待であり、新しい自分への期待でもあります。春は、今までの自分を変え、成長させるチャンスの季節と言ってもいいと思います。

私たち教職員は、家庭や地域との連携を深め、それぞれの役割と機能を果たしながら、春という季節に一人一人の子どもたちが抱いた期待や夢を、もっと膨らませ、花開かせるよう、全力で取り組んでいきます。ご家庭、地域の皆様には、ご理解とご支援を、よろしくお願いいたします。

◆4月の予定

6日(金) 着任式(2年~6年) 開校式(6年)	19日(木) 交通安全教室(1・2年) 給食始(1年)
9日(月) 入学式(2年~5年は、休み)	20日(金) 交通安全教室(3~6年)
10日(火) 始業式	23日(月) 全校朝会 クラブ活動 心臓検診(1年) 尿検査(一次・全)
11日(水) 身体計測(全)	24日(火) 生活科見学(2年) 聴力検査(1年)
12日(木) 給食始(2年~6年) 保護者会(3・4年)	25日(水) 児童集会 内科検診(4・6年) 一斉下校
13日(金) 安全指導 保護者会(1・2年) 聴力検査・視力検査(たんぼぼ)	26日(木) 生活科見学(1年) 聴力検査(5年)
16日(月) 全校朝会 委員会活動 聴力検査(2年)	27日(金) 歯科検診(たんぼぼ・6年) 消防写生会(1・2年)
17日(火) 保護者会(5・6年・たんぼぼ) 全国学力調査(6年) 聴力検査(3年)	28日(土) 学校公開 セーフティ教室
18日(水) 内科検診(1・4年)	29日(日) 昭和の日
	30日(月) 振替休日



立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年5月1日 発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

(先月号で電話番号が間違っていました)

コミュニケーションの力

いづち みつる

校長 井土 満

開校式から始まり、着任式、入学式、始業式と、慌ただしい新校「若葉台小学校」のスタートから1か月がたち、少しずつ落ち着いた生活になってきました。

その様子は、4月28日(土)の学校公開で、ご覧になっていただけたと思います。当日は、大変多くのご家族、地域の皆様にご来校いただき、ありがとうございます。皆様の新校のスタートに対する関心と、期待とをひしひしと感ずることができました。

若葉台小学校の開校理念は「共に学び共に育つ学校」「地域をつなぎ、未来を拓く学校」であり、子どもたちを、様々な人々と協力し、困難な問題にも立ち向かい、世界や社会に貢献し、次代のまちを担う人間として育成するため、**自ら学ぶ子、心豊かな子、元気な子** という教育目標を定めたことは、先月の学校だよりにのせました。

その教育目標の下、様々な教育実践をおこなっていきませんが、特徴的な取り組みの一つに、「外国語活動、外国語科(英語)の授業を通してのコミュニケーション能力の育成」があります。2020年度からの新学習指導要領では、どの学校でも3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科の授業が行われることになっています。立川市内の小学校でも、今年度からそれに先立っての取り組みが始まります。

若葉台小学校では、校内研究のテーマを「外国語に親しみをもち、主体的に人と関わろうとする児童の育成」とし、他校より3~6年生で+10時間、さらに1・2年生とたんぼぼ学級でも10~12時間の授業をおこないます。

しかし、この取り組みは、英語がスラスラ話せる児童を育成するということが、第一の目的ではありません。もちろん、外国の方と、英語を使って、スムーズな会話ができることは、とても素晴らしいことですが、学習指導要領の外国語活動・外国語科のねらいには、外国語の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成することを目指すとあります。

コミュニケーションの資質・能力は、これからの国際社会に生きる子どもたちにとっては、外国の方々に関わるときばかりでなく、普段の生活、学校生活の中でも、とても大切な力の一つです。

新校開設にあたり、保護者の皆さんの一番の心配は、交通安全と共に「仲良くできるだろうか」「人間関係は大丈夫だろうか」ということでした。今のところ、子どもたちは大きなトラブルもなく、1か月をすごしてきました。去年から続けてきた、学年交流の成果でもありますが、しかし、それは「仲がいい」というより、まだ互いの距離感を図りながら、ぶつかることもなく「うまく」やっていると言ったほうがいいと思います。

これからの「若葉台学校」としての、教育活動・学校生活の中では、必ずぶつかり合いやトラブルもあるはずですが、そのときに、それを解決し、乗り越えていくために必要な力が、コミュニケーション能力です。外国語活動、外国語科の取り組みを核に、国語をはじめとする他の教科や学級活動、行事の中で、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力、相手に配慮したり、互いに認め合ったりする力、そういうコミュニケーションの力を育てていきます。690人の子どもたちのみんなが、「若葉台小の子どもたち」としてまとまり、力を合わせて新しい学校創りの一員として活躍できるよう、取り組んでいきます。

まずは、運動会あたりが、次の目標になるでしょうか。



新しいALTの先生は、ケニア出身の方です。

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年6月1日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

地域之力

いづち みつる
校長 井土 満

「記念すべき」第1回の運動会が、いよいよ明日に迫ってきました。新校の立ち上げから2か月での運動会は、とても慌ただしい準備期間でした。市内小学校の運動会は、1学期実施と2学期実施の学校とが、半々ぐらいです。ですから、2学期に実施しても良かったのですが、慌ただしくても「1学期にやろう」と決めたのには、ねらいがあります。

それは、児童同士、教職員同士、そして児童と教員、みんなが協力して大きな行事を乗り越えることで、「若葉台小学校」の一員であるという意識を、一日も早くもってもらいたかったからです。ねらい通り、教職員はしょっちゅう頭を寄せ合って話し合いをする場面が見られました。また、子どもたちも、それぞれの演技や係活動で、協力し合う姿が見られました。

もう少し準備の時間がほしかったというのは本音です。その中で、精一杯準備し、作り上げてきた記念すべき運動会を、保護者・地域の皆様にご覧いただき、子どもたち、教職員の頑張りに、声援を送っていただけたらと思います。

校長の私にとっても、別の意味で、いつもの年以上に慌ただしい2か月でした。

例年、4月5月は地域の様々な団体の総会が開かれる時期です。若葉町内では、「子ども会育成者連絡協議会(若子連)」の総会を皮切りに、「体育会」「青少健」「文化会」「若葉会館運営委員会」「あいあいパトロール」と続けました。

これらの会には、立川九中の富永校長、千頭和副校長と若葉台小の管理職2名が来賓として招待され、並んで出席します。昨年までは、九中、けやき台小、若葉小という行政順に並び、3番手だったので挨拶をしたりしなかったりでしたが、今年は新校開校ということで、すべての会でご挨拶をさせていただきます。

開校までのご支援、応援へのお礼を申し上げ、学校が始まってからの子どもたちのがんばっている様子を話し、校歌の歌詞・校章のデザイン募集中と宣伝もして、ともかく地域の皆さんに、新校の様子をお伝えしてきました。会の後、参加されていた皆さんとお話をする中で感じたことは、地域の皆さんの、新しい学校への期待と、応援の熱い思いでした。それは、若葉町内の子どもたちは、若葉町の宝物であり、みんなで守り、育てていこうという思いでもあります。

今年度から、立川市立の小中学校全校で「地域学校協働本部事業」がスタートしました。これは、地域と学校が一体となり、子どもたちの育成・教育にあたろうという事業です。若葉台小でも立川九中と共同で本部を立ち上げました。どのような形で地域の皆様のお力をお借りするか、どのような組織にしていくかは、まだこれからです。それはどのような形にしても、総会で感じた、若葉町の皆様の熱い思いがあれば、きっとうまくいくだろうということも確信しました。

若葉台小としては、PTA組織の立ち上げという、宿題もまだ残っていますが、ともかく、学校、家庭、地域が一体となり、子どもたちを見守り、育てあげていくことが、これからの教育のあるべき姿なのだと強く感じた4月5月の総会でした。



立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年7月2日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

子どもたちを中心にして

副校長 うめつ やすこ
梅津 靖子

6月も終わりの28日、4年生の校外学習の引率をしました。行き先は、立川消防署。乗り合いバスに乗って「高松二丁目」で下車、徒歩で立川消防署へ。バスに乗る時になると、「みんな、リュックは前だよ。」と、児童が口々に声を掛けます。乗車すると、空いている席には詰めて座り、ご高齢の方には、すかさず席を譲ります。見学時も、集中して話を聞き、熱心にメモを取っています。消火体験も実にスムーズに取り組みます。途中、緊急出動の要請が入り、消防車の出動を見送ったり、若葉町で熱中症の人がいるとの放送では、「大丈夫だろうか。」と心配したりする場面も。めあてをもって校外学習に取り組む様子に感心することばかりでした。帰りは、行きと同様乗り合いバスに1学級ずつ乗ります。最初と最後とでは、20分以上も時間が違ってしまいました。最後にバスに乗った学級の給食の配膳を手伝おうと教室に行ってみると、食缶やお皿が、配膳台の上にすでに並べられています。先にバスに乗車した学級の子どもたちが準備してくれていたのです。若葉台小学校が開校して3ヶ月あまりだというのに、子どもたちが、協力し、互いを思いやり、真剣に学習に取り組もうとしているその姿勢に、誇らしい気持ちでいっぱいになりました。



【規律よくバスに乗車する4年生】

「記念すべき」第1回の運動会から始まった6月。駐輪場がない、応援は立ち見席、児童と一緒に昼食を食べるスペースがない等、保護者・地域の方々には、ご不便をかけることばかりでした。中には、タクシーで応援に駆けつけてくださる方もいらっしゃいました。そのような中であっても、子どもたちに大きな声援を掛けてくださり、警備の仕事や終了後の片付けまで、多くの方が快く手伝ってくださいました。保護者・地域の皆様のご支援のおかげで、子どもたちは、存分に演技や競技に力を注ぐことができました。運動会は、ねらいどおりに、児童同士、教職員同士、児童と教員、そして保護者・地域の方々みんなが協力して、「若葉台小学校の運動会」を作り上げることができたのではないかと思います。

そして、運動会の直後には、2日間に渡っての体力テストがありました。運動会の直後であったにもかかわらず、なんと延べ100名程の保護者の方々が、計測のボランティアとして協力してくださいました。蒸し暑い体育館、日差しが容赦なく照りつける校庭で、1時間目から4時間目までお手伝いくださったのです。多くの保護者の方が、子どもたちのためにと集結してくださったおかげで、予定通りに、全校児童の計測を終えることができました。

この3か月を振り返ってみると、大きな行事に限らず、日常の子どもたちの生活の中で、保護者・地域の方々が支え、導いてくださっていることが、子どもたちの日々の成長と頑張りにつながっているのだと、改めて感じます。子どもたちの登下校の安全を守るために、馬出しや旗振りして下さっている保護者の方々、見守りを続けてくださっている地域の方々。地域の中で何かあれば、何人も方々が現場に駆けつけお世話してくださっています。心より感謝申し上げます。しかし、個々の子どもたちを見れば、一人一人の心に寄り添って対応すべきことが多々あることも事実です。また、馬出しや旗振りも、9月からの体制を考える必要があります。今後も、子どもたち一人一人のために保護者・地域の方々と力を携え、一体となって指導・支援に努めなければと思います。よろしく願いいたします。

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年7月20日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

守れたはずの命

いつち みつる
校長 井土 満

子どもたちやご家族にとっても、地域の皆さんにとっても、たくさんの心配や不安で始まった統合新校も、無事に1学期を終えることができました。この報告ができることに、校長としてホッとしております。それも、新校開設準備に携わってきた皆さん、新校が始まってからも学校に関わってくださっている方々の、努力と支援があつてのことです。皆様に心より感謝申し上げます。

さて、皆さんは、子どもの頃の思い込みが間違いであつたことに、大人になるまで気付かなかつたという経験がありませんか。私は50歳を過ぎるまで「おうど色」という色が「黄土（おうど）色」なのだと思つておりました。「おうど色」のクレヨンの「おうど」は、「オード」という何か、カッコいい外国製品があるのだと幼稚園の頃に思つてしまつたからです。

この7月に、九州、四国、中国、近畿、東海地方を襲つた記録的な豪雨では、死者・不明者が200人以上に上り、平成の30年間での最悪の被害になってしまいました。町や家、人々の生活、命を飲み込んだ洪水の色こそ、まさに「黄土色」だと思ひながら、テレビでのニュースを心痛めながら見ていました。

ニュースを見ながら、『何か』をすれば、助かつたかもしれないという思いに駆られたのは、私だけではないはず。被害に遭われた方の周りの人たちには、その思いが余計に強いはず。その「何か」とは、一口には言えませんが、でも「何か」があつたはず。

世の中には、この「何か」を見逃したり、「何か」をしなかつたりのために失われる命がたくさんあると思います。下校途中の幼女の殺人事件。しつけに名を借りた幼児の「虐待死」。通学路のブロック塀の安全性の見逃し。学校行事での熱中症死亡事故……。

危険に気づき、その危険を排除し、子どもたちを守るのは、私たち大人の責任です。しかし、時に、気付きながらも、「まあ、大丈夫だろう」と考えてしまいがちなのも、私たち大人です。自分にとって都合の悪いことや、日常と違う現象や情報に対して、「まだ、大丈夫」「今回は大丈夫」「自分だけは平気」などと思う心理を「正常性バイアス」と言うそうです。

災害だけでなく、日常生活の中に潜んでいる危機や危険に対しての「正常性バイアス」の「まあ」や「まだ」が、しておけば子どもたちの安全を守れた「何か」を見逃す、原因の一つでしょう。

大人だけでなく、子どもたち自身にも、危険を察知し、それを避ける力を育てなければなりません。残念ながら、子どもたちの活動は、常に良識と善意のある大人の目が届くときばかりではないからです。その力は、学校での避難訓練や安全指導、ご家庭でのお話や注意、地域の方の声かけが、育てるのだと思います。子どもたちにとっては、面倒で「うるさいなあ」と思うかもしれませんが、私たち大人が、「しておけばよかった…」という後悔をしないためにも、我が子にも、他の家の子にも、しっかり気にかけて、目にかけて、声をかけてください。



多くの方に見守っていただいています。

学校を離れ、家庭、地域に戻る夏休みには、学校ではできないこと、学べないことをたくさん経験してほしいと思います。でも、その前提は、安全にです。

全児童が、元気に登校してくる2学期の始業式を待っています。

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年8月28日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

インスタントラーメン 60周年に思う

いつち みつる
校長 井土 満

私の若い頃からの数少ない趣味の一つが「鉄道旅行」です。もう一つは「インスタントラーメンの袋、カップ麺のふた収集」です。うしろの趣味は笑われることも多いのですが、二つの趣味には関連があります。若い頃は時間と体力はあるけれど、お金はない旅だったので、食事は駅前のマーケットで買った「あんパンと牛乳」ばかりでした。そのお店先で見かけたのが地方色豊かな袋入りインスタントラーメンだったのです。旅の思い出にと買って帰り、袋をとっておいたのがきっかけで、以来30年間、収集にはまっています。

インスタントラーメンは、日本が世界に誇る発明の一つです。日清食品創業者の安藤百福さんが、「家庭で手軽に食べられるラーメンを作ろう」と考え、自宅裏に建てた小屋で研究を重ね、60年前の1958年8月に発売したのが、インスタントラーメンの始まりです。

インスタントラーメン以外にも、世界に誇れる日本の発明品は、たくさんあります（一部商品名）。カラオケ、自撮り棒、携帯カセットプレーヤー、テレビゲーム機、うまみ調味料、新幹線、電卓、青色LED、ノート型パソコン、カーナビ、胃カメラ、レトルト食品、インスタントコーヒー、ウォシュレット、自動改札機、デジカメ、アイスノン、使い捨てカイロ、魚群探知機などなどです。（共同開発ではとか、特許取得の早い遅い、発明者の出身地の問題など、異論や異説もあるのですが…）

「日本はすごい！」とか、「日本人は優秀」とかを言いたくて、この話をしているわけではありません。日本は資源に恵まれていません。また、国土、特に農産物を作れる平野がたくさんあるわけでもありません。そういう条件の下で、国内で、または世界で売れる製品を、創意や工夫で生み出さなければ豊かになれなかったのが、第二次大戦後の日本の経済だったということです。

さて、これからの日本社会はどうでしょう。今と同じような豊かさを維持するには、やはり今までと同じように、創意や工夫で、世界に求められる製品やシステムを作り出し、売っていくしかないと思います。しかし、それは世界中の国が考えていることなので、それらの国々に負けない、独創的で魅力的な製品を作り出す必要があります。

一方で、そういう経済活動の中で、日本だけが豊かであればいいという考えも時代遅れになりつつあります。世界中の人々との協力なしには、発明も、新しい考え、製品を生み出すことも困難でしょうし、一緒に解決しなければならない温暖化などの環境問題、食料問題、エネルギー問題などの世界的な課題にも、協力して向き合あい、アイデアを出さなければなりません。

学校教育は、そのときに必要となる力を子どもたちに付けなければなりません。それが、新しい学習指導要領にある「主体的、対話的で深い学び」によって付けられる力かもしれませんし、若葉台小学校の研究主題である「外国語に親しみをもち、主体的に人と関わろうとする児童の育成」なのかもしれません。時代時代に必要な、求められる力は違うのですが、どんな時代の要請にも応えられ、たくましく生きていける力を、子どもたちには身に付けさせていきます。

今日の始業式や教室で見かけた子どもたちは、夏休みにいろいろな体験をして、一回り大きくなったようにも見えます。今学期も、未来を創っていく、この子どもたちに対して、皆様方の見守りやご支援を、よろしくお願い致します。



立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年10月1日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

開校から半年

いづち みつる
校長 井土 満

統合新校の開校、立ち上げから半年がたちました。「開校」とか「立ち上げ」という言葉が、ずーっと昔のことのようにも思えるぐらい、目まぐるしく、様々な行事や教育活動をこなしてきたというのが正直な感想です。しかし、「まだ1年目の半分なのか」という思いもあります。

子どもたちも教職員も、がむしゃらに突き進んできた1学期、半年間だったので、特に子どもたちは、緊張と頑張り、と、ある種の決意と我慢とで、開校する前に心配されたような、例えば「けやき台小だから、若葉小だから」というようなトラブルは、ほとんどありませんでした。その緊張感が解ける始めた2学期には、どの学校にもあるような生活指導上の問題や、友だち同士のトラブル、授業中のわがままなどが、少しずつ見られるようになってきました。もちろん、それらは良いことではありませんので、一つ一つを丁寧に、学年を中心に、学校全体で対応しているところです。

9月15日の学校公開には、大雨にもかかわらず、多くの保護者・地域の方にご来校・参観いただきました。その後に集まってきたアンケートには、統合にあたり、心配していたトラブルが起きていないことへの安堵の感想もあれば、クラスによっては児童の落ち着かない様子への心配、教室環境や指導法へのご意見など、授業を見ての感想がびっしりと書かれていました。1枚1枚に目を通すと、みなさんの学校への応援の気持ちと同時に、学校に寄せられている期待がひしひしと伝わってきました。アンケートは全教員に回覧し、その思いを生かし、期待に応えられる学校づくりを進めなければならないと、皆で決意を新たにいたしました。

学校公開と同じ日に、PTA的な「新たな保護者組織」立ち上げに向けての意見交換会が行われました。何人の方に参加していただけるか心配でしたが、50人を超える方に参加していただき、活発な意見交換がされました。その中で出た意見の中心は、「子どもたちのためにという思い、特に安全面は、みんなもっている」ということ。そして、その思いを生かせる組織、押しつけでなく、みんなが早く参加できる組織にしなければならない、という意見も多く出ました。今年度の後半の大きな課題として、けやき台小、若葉小の旧PTA役員の方を中心に取り組んでいきます。会に参加できなかった皆さんのご意見を聞くアンケートの実施を予定しています。ぜひ、新しい学校、新しい時代に即した、組織作りにご協力ください。

応援の組織ということでは、「読み聞かせボランティア」「放課後子ども教室」が立ち上がり、活動が始まりました。また、算数の授業ボランティアを募集したところ、50名以上の方に登録をしていただき、こちらも10月から活動が始まります。

公募していた校歌の歌詞が決まったとの連絡がありました。応募121作品の中から教育委員会定例会等で協議を重ねた結果、立川第九中学校3年生でけやき台小学校卒業生の白井雄大（しらいたけひろ）さんの作品が選ばれました。前向きで、元気のわき出るような素晴らしい歌詞です。また、校章も、おいおい決まってくるでしょう。

若葉台小学校の歴史は、まだ始まったばかりです。まだ、まだ、決めなければならないこと、やらなければならないことが、表現は古いですが、ほんとうに山のようにあります。やはり、「新しい学校を作るということは、大変なんだなあ」と、つくづく思いながら、やり甲斐と責任に、身の引き締まる思いの「半年の終わり」「次の半年の始まり」です。

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年11月1日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

初めての秋

いづち みつる

校長 井土 満

11月です。朝の気温が10℃を下回り、秋の深まりを感じます。皆さんは、秋と言えば何を思い浮かべますか。

中学校で国語の教師をしていたときに、俳句の授業で「春と言えば…」で思い浮かぶ単語を100個書きなさいという課題を出しました。生徒は「えーっ、100個は無理だよ。」と言いながらも、「桜、チューリップ、入学式、新入生……」と、取り組み始めると結構たくさんの単語が出てきて、最後にはクラスで200以上の季節の言葉が黒板に並びました。3か月後に「夏」でもやると、同じようにたくさんの単語が出てきました。

これが「秋」になると、ぐっと難易度が上がるようで、中学生からは、秋にちなんだ単語は、あまり出てきませんでした。大人なら「キノコ、鮭、栗…」などの食べ物から攻めるでしょうか。それとも「落ち葉、菊、ドングリ」といった植物からですか。一人で100個となると大人でも意外と難しいかもしれません。その一方で「〇〇の秋」という言い方は、よく耳にします。例えば「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」「芸術の秋」などです。ところが逆に「〇〇の春」「〇〇の夏」というのはあまり聞きません。これは不思議な気がします。

若葉台小でも9月10月と秋にちなんだ行事や教育活動がたくさんあり、11月にも予定されています。

「読書の秋」にちなんで、10月22日から明日までが読書週間（旬間）です。図書委員会が、読んだ冊数に応じて葉（しおり）を配付したり、おすすめの本を集会で発表したりして、読書活動を推進しました。

「スポーツの秋」ということで、東京都では10月を「体力向上努力月間」に決めて、都内公立学校全校で体力向上の取組をしました。若葉台小でも、全国体力調査の結果を基に、子どもたちの体力の弱点を分析し、鬼ごっこなどの外遊びの奨励や体育の授業の工夫などを通して、体力向上を図りました。また、家庭でもできる体力向上「親子でチャレンジ」を配布しましたが、取り組んでいただいていますか。

「芸術の秋」の取組としては、10月9日に鑑賞教室を実施し、ドラムパフォーマンスグループ TJPPAL の演奏を全校で楽しみました。5年生は、立川ファーレアートの見学にも行きました。

そして何より11月には「音楽会」があります。若葉台小学校では、学校の特色の一つに「音楽の響く学校」を掲げて教育活動をしています。音楽を通じて、響き合い、協力し合う楽しさや喜びを体験させ、感性や協調性を培い、豊かな情操を育てることがねらいです。音楽会のスローガンは「心と音を一つにして LET'S ENJOY A HAPPY MELODY!」です。新校開校にあたり、新しい環境や新しい友達に不安をもっていた子どもたちも、音楽を通じ、学級、学年、学校が一つにまとまってきました。「音楽会」は、音楽だけでなく、その成果をお見せする機会でもあります。



今年の流行語の一つに「平成最後の〇〇」があります。それを使えば、この秋は「平成最後の秋」です。でも、若葉台小にとっては「初めての秋」ですし、そして「初めての音楽会」です。地域、保護者の皆様には、ぜひともご覧いただきたいと思います。子どもたちと教職員が心一つにして創り上げた合唱・合奏・音楽劇は、どれも「初めて」にふさわしく、きっときらきらと輝いて見えるはずです。

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年1月2日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

心と音を一つにして

副校長 うめつ やすこ
梅津 靖子

「心と音を一つにして LET'S ENJOY A HAPPY MELODY!」

子どもたちの歌声が、子どもたちの奏でる音が、体育館いっぱいに響き渡りました。11月17日(土)、子どもたち同士の心と心が、教職員、会場に集まってくださった保護者・家族の方々、地域の方々と子どもたちの心と心が響き合い、素晴らしい音楽を創り上げることができました。演奏が終わった後の、子どもたちの安堵した様子にあふれる満足感、十分に力を出し切ったという誇らしげな笑顔。一つの音楽を創り上げることの楽しさ、協力することの喜びを十分に実感できた音楽会となりました。3日間に渡って開催された音楽会。3日間、集中力を持続させることは、本当に大変なことでした。そして、ここまでの道のりは、子どもたちにとっても教職員にとっても、容易なものではなかったはず。子どもたちは、音楽の授業で、休み時間、放課後、そして家庭で、繰り返し、繰り返し練習



を重ねてきたと聞きました。また、くじけそうになることも、諦めそうになることもあったと聞いています。保護者の方の協力と励ましがなければ、頑張り抜くことができたのではないのでしょうか。ありがとうございました。「心と音を一つにして」という目標に向かって全校一丸となって取り組んだ音楽会。一人一人の頑張り、一人一人の思いが、音楽会の成功に結び付いたと思います。音楽会当日、受付等のボランティアとして協力くださった皆様、大きな拍手をおくってくださった皆様、感想や今後の改善点などお寄せくださった皆様、本当にありがとうございました。

大きな行事の後、どのような気持ちでどのような取組をしていくべきか。全校朝会で、2つの提案をしました。音楽会に向けて、一人一人がコツコツと頑張ったように、誰もが、コツコツと毎日頑張れることです。一つ目は、「あいさつ」です。気持ちのよいあいさつが学校のあちらこちらから聞こえてくるようになれば素敵ですね。先月の20日に、小中連携のあいさつ運動がありましたが、元気で上手なあいさつをする児童は、残念ながら少ないと感じました。「おはようございます。」と声をかけても、うつむいたままの児童も少なくありませんでした。どうすれば気持ちのよいあいさつができるようになるのか。若葉台小の子どもたちの大きな課題です。でも、子どもたちがこの課題解決に向けて、取り組み始めています。エコ・ボランティア委員会の5・6年生が、交替で週2回、正門の前に立ってあいさつ活動をしているのです。コツコツの輪を広げていけるような予感がしています。二つ目は、「掃除・きれいな学校」です。掃除に一生懸命取り組む、自分の身の回りをきれいにする、ゴミが落ちていたら拾う、机・椅子を整頓する。掲示物がはがれていたら貼り直す等々。全員が一つのゴミを拾ったら、697個のゴミがなくなります。2つ拾ったら1394個のゴミがなくなります。身の回りをきれいにすることは、心まですっきり気持ちよくなります。自分のことだけでなく、周りのことに目を向けて考えることができる心を育むことにつながるのです。美化委員会のポスターには、きれいにするポイントが写真付きで掲示されています。このポイントを基に、一人一人がコツコツと「きれいな学校」を目指して実践してほしいと思います。高学年の児童が中心となって、全校で「コツコツ頑張る」小さな取組が、若葉台小学校の土台を作っていくことになるはず。いよいよ2学期もまとめの月となりました。小さな「コツコツ」を全校で積み上げていく取組を、この2学期のまとめとして取り組んでいきたいと思っています。



立川市立若葉台小学校

学校だより

平成30年12月25日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

児童会サミットから考えたこと

校長 井土 満

年末の学校だよりは、この1年間を振り返って、世間をにぎわせたニュースを取り上げることが多いのですが、今年の漢字に選ばれたのが「災」だったように、あまりいい出来事が思い浮かびません。

子どもの虐待・殺害事件、脱走、危険タックル、大阪・北海道での地震、西日本豪雨、大型台風の上陸など、思い返すだけでも背筋がゾワゾワする感じです。一方で、平昌五輪やアジア大会でのスポーツ選手の活躍、長崎・天草の「潜伏キリシタン」の世界文化遺産登録やナマハゲのユネスコ無形文化遺産登録、本庶氏のノーベル生理学・医学賞受賞などはうれしい方の出来事です。

そして、18歳からを成人とする改正民法、働き方改革関連法、カジノ法、改正出入国管理・難民認定法など、これからの社会を激変させるかもしれない法案も成立した年でした。

12月8日(土)に立川市役所で第3回の立川市立小学校児童会サミットがありました。若葉台小からも代表児童が参加し、他校の6年生と情報交換や討論をしてきました。討論のテーマの一つが「10年後の立川市」でした。中学生が司会となり進められた話し合いの中で、子どもたちから出てきた立川市の未来像は、夢にあふれると言うよりは、環境問題やゴミ問題などが解消されていないという、現実的な視点にたったものが多かったように思います。私たち大人ですら、10年後を見通すのは難しいことですから、子どもたちにも難しかったようです。

今の社会の変化を見ると、一層のグローバル化やITの発達、人工知能が活用される社会が訪れることは予想されますが、それがどんな現象として現れているのかまでは、よくわかりません。少子高齢化が進み、学校教育の仕組みや働き方も大きく変わっているかもしれません。確かなのは、今の小学生の子どもたちは、激動・激変していく、そういう社会を生きていかなければならないということです。

児童会サミットのもう一つのテーマは「SNSの使い方」でした。各校でのSNSトラブル防止への取組や自分たちがしなければならないことなどを話しました。

今年の8月に厚生労働省は、病的なインターネット依存が疑われる中高生が5年間でほぼ倍増し、全国で93万人に上るとの推計を発表しました。ネット依存は、インターネットやオンラインゲーム、SNSなどを使い過ぎる状態で、学力の低下、健康問題など日常生活の支障ばかりでなく、ひどくなると暴力や引きこもり、うつ病などの合併症や脳の障害を引き起こす恐れもあるそうです。

若葉町(立川九中、若葉台小)には、スマホやインターネットを正しく楽しく安全に利用するための「若葉町SNS宣言」があります。それは次の6項目です。

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| ①20時以降は、基本的には使わないようにします! | ②フィルタリングの設定をします! |
| ③個人情報を載せないようにします! | ④メッセージの送信前には、相手の気持ちを考えて読み返します! |
| ⑤必要なこと以外では、使わないようにします! | ⑥困ったことがあれば、すぐに相談します! |

IT社会がさらに発展することが予想される中、スマホを始めとする情報機器の使用、ネットやSNSの利用は避けて通れません。ですから、子どもたちには、取り上げたり、禁止したりするのではなく、そういうものと上手に付き合う方法を教え、一緒に考えていくべきでしょう。

児童会サミットの中では、「使う人が注意して使う」「ルールを作る・守る」などの意見に加え、「保護者が意識を変える」ことが必要との意見が出ました。クリスマスやお正月で、新たにスマホを持つ子どもも増えるかもしれません。与えるだけでなく、しっかりとルールを決めたり、使い方を見守ったりすることが、ネット社会のトラブルや危険から子どもを守ることに繋がると考えます。

私にとっての今年一番の出来事は「若葉台小学校の開校」です。開校以降の皆様のご支援・ご協力に感謝いたします。そして、子どもたちにも、皆様にも、穏やかで良き年が訪れることをご祈念申し上げ、一年を終わりたいと思います。

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成31年1月8日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番4号

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

終わりと 始まりと

校長 ^{いづち} ^{みつる} 井土 満

明けましておめでとうございます。平成31年が始まりました。若葉台小の児童の、そしてご家族や地域の皆様の、穏やかな一年を心より願い、新年のご挨拶を申し上げます。

ご承知のように「平成」という元号(年号)も4月30日までです。その「平成」のスタートは、1989年の1月8日なので、今日からちょうど30年前のことでした。前日の昭和64年1月7日に、昭和天皇が崩御され、次の日から新しい元号が始まったのです。

「昭和」最後の日になった、1月7日のことは、部分的にですが、よく覚えています。教員になって3年目、初めての中学3年生の担任をしていた私は、初めての進路指導、2学期の進路面談をひとまず終え、一人で趣味の鉄道旅行に出かけていました。東北地方の鉄道(国鉄は1986年4月からJRになったばかり)をグルグルと乗りあるき、1月7日は山形県の長井線、米坂線に乗り、新潟に抜けて信越線、上越線で東京に帰ってくる予定でした。

天皇崩御の報に接したのは、その途中の山形県の「今泉」という駅の待合室でした。なぜ、そんなにはっきり覚えているのかというと、わけがあります。鉄道旅行を始めるきっかけとなった、鉄道旅行作家の宮脇俊三さんが作品の中で、昭和20年8月15日の終戦の日を、その「今泉」で迎えたと書いていたからです。歴史的な日を、同じ駅で迎えるという偶然を、若かった私は「運命的」なことに感じ、一人で感動していたので、よく覚えているのです。

新しい時代を迎え、「何かが変わるかも」という期待感と、ちょっとした興奮は、100枚以上の受験書類を「昭和」から「平成」にすべて書き直すという作業で、すぐに冷めてしまいました。実際に元号が変わっても、何かが変わるわけでもなかったのですが、それでも30年もたつと、ずいぶんと世の中は変わりました。30年前には、身の回りに普通にある、パソコン、携帯電話、スマホなどの電子機器や、そこにつながるインターネットやメールの世界はありませんでした。また、街で外国の人に出会うことは、珍しいことでした。これらの様々な変化は進歩であり、同時に問題や課題を生み出す元にもなっています。ちなみに、消費税も500mlのペットボトルはありませんでした。

古来より日本では、元号を変えること(改元)には、戦(いくさ)や疫病、自然災害を断ち切り、新しい時代を作るという願いが込められていました。「平成」にも、大きな戦争があった昭和とはちがう、平和な世の中を願う気持ちが込められていました。

平成の30年間は、「平成」という元号に込められた願いどおりに、日本は戦争には直面することはありませんでした。しかし、テロや民族紛争、宗教紛争、核やエネルギー、移民、領土、食料危機などの問題、地震・台風・火山などの自然災害、地球温暖化のような環境問題、少子高齢化の進行と、昭和の時代とは違う、国内に止まらない問題もたくさん生まれてきて、決して平穏無事の時代ではありませんでした。そして、当たり前のことですが、これらの問題は、年号を変えるだけでは解決はされません。

私たち大人は、それらの問題や課題を少しでも解決し、新しい時代を生きる子どもたちへの宿題を減らさなければならないと思います。同時に、解決されなかった問題や、新たに発生するであろう、今は予想もできないような問題に立ち向かう力を、子どもたちには付けさせなければなりません。

「平成最後の日々」に、若葉台小学校の子どもたちは、どんな思い出を作るのでしょうか。願わくは、楽しい思い出をたくさんもって、次の時代の始まりにつなげてほしいと思います。



書き初めの提出

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成31年2月1日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

大坂選手 おめでとう！

校長 ^{いづち} ^{みつる} 井土 満

大坂なおみ選手が、全米オープンテニスに続き、全豪オープンテニス大会で優勝しました。「やったあ！」って、叫びたくなるような、素晴らしい出来事でした。試合後の報道では、盛んに「日本人初の…」というフレーズが使われていました。私は、それにちょっと引かかる気持ちがあります。もちろん、大坂選手が日本人かどうかという話ではありません。

大坂選手は、日本人の母とハイチ系アメリカ人の父が両親で、アメリカと日本の二つの国籍をもっていますし、日本テニス協会登録選手です。ですから、「日本人初の」という表現は、決して間違いではありません。ところが、現在の日本の法律では、20歳より前に日本の国籍と外国の国籍をもつ多重国籍の状態になった場合は22歳に達するまでに、どちらかの国籍を選ばなければならないことになっています。大坂選手は、今年の10月に22歳になります。そのとき、彼女は突然「日本人をやめた」と言い出すかもしれません。

そうなるかどうかはともかく、大坂選手を応援している日本のファンの多くは、大坂選手が日本人だからという理由だけで応援しているのではなく、大坂選手の「人柄・人間性」に対して応援しているのだと思います。上手にできないと泣きそうな顔になったり、ふてくされたりする子どものような姿。一方で、世界一を支えるパワフルで正確なショット。ひたむきにあきらめずに球を追いかける姿。つたない日本語でも、一生懸命に気持ちを伝えようとしてくれる優しさ、笑顔。そういうところに、魅了されているのです。

国とか国家とかを考えると、領土やら政治やら民族などに行き当たりますが、文化や経済活動が、そういう一つの区切りの中で済まされていた時代には、大坂選手のような問題はあまり表面化しませんでした。しかし、これだけ人の行き来が激しくなり、様々な分野で国際化、ボーダレス化が進む現在では、国籍の問題などは、今までの日本の考え方では実情に合わなくなってきたのでしょ。

それは法律の問題だけでは、ありません。大坂選手へのインタビューで、ことさらに「日本語をお願いします」と言ったり、インタビューの字幕を日本語の拙(つたな)さを強調するように「カタカナ」で表記してみたり、大坂選手をモデルにした食品会社のアニメCMが「肌の色を実際より白く」描いているとの指摘を受けて公開停止になったりということに、日本社会や日本人の、外国人に対する、古い意識、差別的な意識が現れている気がします。最初にあげた「日本人初の…」の表現の中にも、それが含まれているように感じるから、ちょっと引かかるのです。

昨年末に、人手不足を解消することを目的に出入国管理法が改正され、この4月から5年間で最大34万人を超える外国人労働者が日本に入ってきます。立川市でも、今まで以上に多くの外国の方と一緒に暮らす時代が、すぐそこに来ています。立川市は2016年12月に、国籍や民族や文化のちがいを互いに尊重し、共生する地域社会の実現を目指して「多文化共生都市」宣言を出しました。

- ・思いやりの心を持って、互いの文化を理解し尊重します。
- ・国際的な視野を持ち、みんなで協力して、多文化共生のまちをつくりま。
- ・ともに地域社会の一員として、笑顔で交流します。
- ・やさしい気持ちで人や文化を受け入れ、多文化共生の輪をひろげま。

多くの外国人や大坂選手のようなグローバルな人達と、真に共生していくには、法律や制度の見直しもしなければなりません。同時に、私たちの古い意識も変えていかなければならないと思います。

大坂選手の活躍は、今までの日本人、日本社会がもっていた、外国人に対しての見方や考え方を見直すきっかけになるのかもしれない。



体力向上で全校持久走の取組

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成31年3月1日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

奇跡の命

いづち みつる
校長 井土 満

2月9日(土)の朝、保護者、ご家族の皆様、新しい校歌と校章のお披露目をしました。雪のちらつくなか、多くの方に見に来ていただきましたことに感謝申し上げます。聞くところによると、会場に入れなかった方もいらしたとのことで、本当に申し訳ありませんでした。4校時には、立川市長を始め、議員や教育委員会の皆さん、地域の方々、新校の立ち上げに関わってくださった皆さんをお招きし、校歌を作曲していただいた山下洋輔さんにもご来校いただき、開校記念式典を無事執り行うことができました。

校歌の歌詞と校章のデザインが「公募で」と決まってから、多くの方に関心をもっていただき、校章のデザインは393作品、校歌の歌詞は121作品もの応募がありました。両作品とも、若葉台小の子どもたちが通うことになる立川九中の生徒作品が選ばれたこと、「たちかわ交流大使」で世界的なジャズピアニストの山下洋輔さんに作曲していただいたことは、開校を飾る大きな記念となりました。緑が鮮やかに映える立派な校旗も市教委からいただき、校歌と並び、これから様々な行事を彩ることになります。この素晴らしい校歌・校章を大切にしながら、教職員と児童が心一つにして新しい学校作りを進めていきたいと思っております。

2月の終わりに、都内の大学病院で、昨年の夏に体重が263gで生まれた男児が、3238gまで成長し、元気に退院したとの報道がありました。新生児は3000g前後で生まれるのが普通ですから、10分の1にも満たない体重です。世界的に見ても300g未満で生まれて、元気に退院できた赤ちゃんは20数例しかないそうです。医師を始め多くの人の支えと幸運があつての「奇跡の命」だといえます。

しかし、この赤ん坊のような手厚い医療に恵まれる子どもは、本当に幸運な子どもです。私が20年前に勤務していた日本人学校のあった発展途上国では、生まれた子どもの10人に1人は、1歳まで生きられません。その後、小学校に入るまでもう1人が命を失っていました。国際連合児童基金(ユニセフ)の2017年時点の推計でも、その国では生後4週間未満の新生児1000人当たりの死亡数が45.6人で、世界で最も赤ちゃんが死ぬ国の一つです。逆に赤ちゃんが最も安全に生まれる国は日本で、1000人当たりの死亡数は、わずか0.9人です。

同じく2月の終わりに5年生は、理科の「人の誕生」という単元を学習し、その発展として助産師さんをゲストティーチャーに、赤ちゃんが生まれるときのビデオを見たり、現場での体験のお話を聞いたりしました。そのあとの感想文では、小さな精子や卵子が赤ちゃんまで育つ「生命の神秘」や、命の大切さに気付いたと書いている子どもたちがたくさんいました。また、3000gの赤ちゃん人形が意外に重いことに驚いたという感想も見られました。こんなに大きくなるまで、母親のお腹の中で育てられたことに、初めて気付き感動したのかもしれない。

体重の重い軽いの差や、どの国で生まれたかによって、どの赤ちゃんの、どの命にも軽重はありません。助産師さんのお話の中で、どの子の命も「奇跡の命」なのだというお話がありました。本当に、その通りなのです。

しかし、現実には、その命をないがしろにされ、小さな命の炎をかき消されている子どもたちが、世界中にたくさんいます。日本の医療技術や衛生教育、衛生環境の整備などで、生まれてすぐに消えていく命を救うことに、日本はもっともっと役立てるはずですよ。

感想文の中で「助産師さんになりたい」と書いている女の子が何人かいました。(現在の法律では男性は助産師にはなれないそうです。)若葉台小で学んだことを生かして、世界の国々で、いろいろな場面で、子どもの命を救うような仕事につく子どもたちが育っていったらいいなあと思いました。



「赤ちゃんて重いね」

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成31年3月22日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP

<http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

思いに支えられて「子どもたちのために」

副校長 ^{うめつ やすこ}
梅津 靖子

3月17日(日)、吹奏楽部のHAPPYコンサートが開催されました。リハーサルの最中も、吹奏楽部の保護者の方々が、開場の準備に奔走されていました。そして、校庭には、早い時間から多くの児童・保護者・地域の方々列を作り、開場を待っていただきました。準備していた椅子が足りなくなるほど、多くの方がコンサートに集まってくださったのです。その期待に応え、吹奏楽部の児童は、心のこもった素晴らしい演奏を披露してくれました。1年足らずでこれだけの演奏ができるようになるのかと驚くほどで、温かな拍手をたくさんいただきました。



音楽があふれる学校の活動の一つとして5月に発足した吹奏楽部。楽器の演奏だけでなく合唱の練習にも力を入れ、音楽集会や音楽会では、全校児童の歌声を支える力となって活躍してきました。若葉台小の子どもたちが、歌を歌うことが大好きで、素敵な声で歌うことができるようになってきたのも、吹奏楽部の子どもたちが、それぞれの学年の中でも力を発揮してきたからなのだと思います。



このように、懸命に取り組む子どもたちを支えてくださったのは、保護者・家族の皆様であり、若葉会館祭りや音楽会、コンサートに足を運び、温かい拍手を送ってくださった多くの保護者の皆様・地域の皆様です。楽器指導は、立川吹奏楽団と国立音楽大学が協力してくださいました。立川市教育委員会も応援して

くださいました。吹奏楽部の活動一つ取り上げても、どれだけ多くの方々が若葉台小の子どもたちを支えてくださったのでしょうか。感謝の念に絶えません。

本日、修了式を迎え、696名の児童が1年間の教育課程を修了することができました。4月、児童数が立川市内で1番大きな学校としてスタートしました。通学に30分以上かかる児童もいる、体育館に全校が集合することも大変、40人の学級が3学年もあるなど、大きな環境の変化に児童も教職員も戸惑うことの連続でした。そのような中、何とか1年を無事に終えることができたのは、保護者・地域の方の支えがあったからです。登下校の安全を守るようにと尽力くださったシルバーさん。運動会、体力テスト、音楽会、馬出し表の作成、読み聞かせ、校外学習での引率、算数などの学習への支援等、「できることは手伝いますよ。」と、ボランティアとして力を貸してくださった保護者の方々。子どもたちにも、どのような方々が皆さんの学校生活を助け、励ましてくださったのかを考えてみましょう。と話しました。教職員も、力を合わせ、知恵を出し合って指導にあたってきました。保護者・地域の方からは、厳しいご意見をいただくこともありましたが、その度に、教育活動の取組の改善を図ってきました。今後も、若葉台小の子どもたちのために力を尽くしてまいります。学校・地域・保護者が、この連携を一層深めていくことができるよう、これからもどうぞよろしく願いいたします。



朝の読み聞かせ